

1. 授業の目的と概要

本講義は政治経済学入門である。その代表格であるマルクス経済学の基礎を理解することを目的とする。時間制約から、マルクス経済学一般理論のうち、資本の生産過程論について講義する。

2. 学習の到達目標

- ・現代の経済理論を学ぶ基礎教養として、投下労働価値説の視角と論理を身につける。
- ・現代社会における労働過程の管理、イノベーションと企業発展、工業化と都市化のダイナミズムに批判的なメスを入れる理論としての政治経済学の基礎を身につける。

3. 授業の内容・方法と進度予定

本講義の構え——資本主義の歴史的過渡性、経済学の完結性と非完結性、一般理論と無数の現実商品が作り出す3層の社会システム——労働・商品・所有

労働価値説と物神性

貨幣とは何か——商品システムの発展としての貨幣システム

資本増殖の秘密——貨幣システムの発展としての資本システム

古典派経済学の困難

特殊な商品としての労働力——商品・貨幣システムと人間の再生産。市場と家族

絶対的剰余価値の生産——労働時間の延長

労働過程と価値増殖過程——等価交換と搾取の両立

可変資本と不変資本。資本の行動規範としての剰余価値率

労働日の延長とこれをめぐる対立——市場と国家。労働政策

相対的剰余価値の生産——生産力の発展

相対的剰余価値と特別剰余価値

協業・分業・機械化と管理の発展——資本主義の生産様式

賃金形態——どれだけ払われるか、何に対して払われるか

資本の蓄積過程

単純再生産と拡大再生産——蓄積は社会的貢献か自己目的か

資本蓄積の制約条件——製造できない商品としての労働力

機械化の進展と雇用

資本にとっての過剰人口と産業予備軍効果——工業化と都市の発展。失業と社会政策

本源的蓄積と資本蓄積の歴史的傾向——歴史的システムとしての資本主義

4. 成績評価方法

- ・期末試験による。講義中の発言により加点する。

5. 教科書と参考書

- ・教科書として大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年を使用する。古書でもよいが、必ず買うこと。

6. 予習と復習について

予習は不要。復習と、参考文献を活用した自己学習が肝心。

7. その他（履修の条件、連絡先、オフィスアワー等）

教員アドレス kawabata@econ.tohoku.ac.jp

オフィスアワーは第1回講義で指定する。